

「体育・スポーツをすること」や 「汗を流すこと」が好きな子どもの育成

大分県中津市立大幡小学校

全校児童数	700名(男子382名 女子318名)		
全クラス数	25	教職員数	55名
体育専科教員訪問学校数			8校
訪問校	中津市立(①真坂小学校②小楠小学校③上津小学校④南部小学校 ⑤山口小学校⑥三保小学校⑦今津小学校⑧三郷小学校)		
体育専科教員名		藤原 昭治	

Plan：取組時の課題と計画

1 取組時の課題

- ・3年に及ぶコロナ禍の日常活動制限継続により、運動やスポーツをすることが好きな児童の肯定的評価の割合が低くなることが予想される。
- ・本校の課題は走力や巧緻性、体全体を上手に使う力(50m 走や男子のソフトボール投げ)が低い学年が見られることである。全国平均と比較して達成率は約27%である。
- ・全校児童数 700 人に対して、特に体育館は著しく狭い。同様に、運動場も狭い。休み時間に外で遊べる広さは十分ではない。道具も一人ひとりに行き届かないことが多いため、十分な運動量を確保するため4年前の学年合同体育(90~120名)メインから学級体育や2クラス体育に移行継続である。若い教師たちを育てながらも学級体育を軌道に乗せる必要がある。

2 取組の計画

- ① 学年合同体育(90~120名)から【学級体育への移行：4年目】によりアクティブな学び時間や20分以上の運動学習量の確保
- ② 年間を通して全校で【なわとびチャレンジ：5年目】(様々な跳び方や連続跳びなど)【ラジオ体操：4年目】を中核とした体力向上。
- ③ マット、跳び箱、寒稽古と3回の特設期間の設定
- ④ 【体力アップ・カルテ：5年目】(カルテを診れば、児童個人の体力や生活習慣が一目でわかる。6年間継続できる。)により子どもたち一人一人が自分自身の体力を全国や県、昨年度の自分と対比させ自分に足りない力を考えさせる等の思考を深めさせる。
- ⑤ 校内環境整備(用具の補充・修理、練習用具の設置)
- ⑥ 振り返りの時間(自分の事・友だちの事・これからの事)確保や体育見学カード(授業とリンク)の充実
- ⑦ 本校の実践体育授業を他校でも実施及び本校の各校実践(なわとびチャレンジ)を他校にて研修会を実施し本校をリンクさせ学びをよりアクティブなものにさせる。

Do：実践内容

- ① 「わかる」「できる」「楽しい」体育の授業の工夫点として①時間の創出
- ②空間(場)の整備③仲間づくり④+αの手間。また、コロナ対策として「3つの密」(密閉空間・密集空間・密接空間)を俯瞰し、常に改善。咳エチケット・手洗いを大切にすることも体育授業で徹底。

密閉空間の改善…体育館利用は窓全開 扇風機のフル活用

密集空間の改善…①外体育ではマスクを外す

②学級体育(2クラス体育でも分かれて学級体育)

密接空間の改善…近距離で会話する際は、マスク活用

- ② 年間を通してなわとびチャレンジ(巧緻性や走力等アップ対策含む)やラジオ体操(柔軟性等アップ対策含む)に取り組み目標を持ち、あきらめずに挑戦や体力アップ・運動習慣づくりを行った。
- ③ マット、跳び箱、寒稽古と3回の特設期間(柔軟性や巧緻性、走力等アップ対策トレーニング含む)を設定し、全校で共通理解して取り組み指導時間・運動時間を確保できた。
- ④ 職員室前の体育掲示板の充実。体育の授業や一校一実践を中核とした情報発信拠点で全校に一体感をもたらした。(例)頑張りが見えられたなわとびチャレンジ情報の随時更新。
- ⑤ なわとびチャレンジカード(短なわ)を子どもの実態に応じ柔軟に改善。更に、長なわ学級チャレンジカードなど校内体力アップ環境整備を実施。(巧緻性等アップ対策含む)
- ⑥ 振り返りの時間(自分の事・友だちの事・これからの事)を確保。
- ⑦ 本校の実践体育授業(一校一実践の取り組み方・改善研修、職員用体育通信も含む)を他校で授業実施。

●工夫したこと(&苦労した点)

- ① みんなが楽しい体育・スポーツの定着⇒学びの際、「全員に役割を持たせているので、どの子にも活躍の場がある」こと⇒【常に改善】
- ② 「みんなで楽しめる」【しかけ】をすることによって「みんなが楽しい」体育・スポーツとなった。(例)一人一台端末活用やコミュニケーション
- ③ 目につきやすい場所に【体育掲示板】を設置して、子どもたちはもちろん職員や来校者も立ち止まり観るようにした。具体的には、【対比】(A≠B)、【類似】(A≃B)、【因果】(A⇒B)の3点を大事にしたり、できるポイント・できないポイントを大事にしたりして思考がアクティブになるような掲示内容とした。【最新情報に常に改善更新】

Check：取組の成果

- ① 自分の役割の価値に気が付くことによって、友だちの笑顔が自分みんなの楽しみにつながっていった。⇒心の成長
- ② 子どもたちが友だちの技の認定(サイン)することに挑戦。カード内の技習得済みの子どもが自分の学び(挑戦や表現)を活かして見取ることで、友だちはお互いの達成感を実感し合う同士であることを知った。

Action：今後の課題

- ① コロナ禍にどこまで子どもたち一人一人の達成感や楽しさを感じさせられるかが課題である。(例)子どもの技能の向上とともに毎年ブラッシュアップ改善されるなわとびカードの中身
- ② Planの際に系統性を大事に下ゴール地点の共有の継続した学級体育への完全移行。

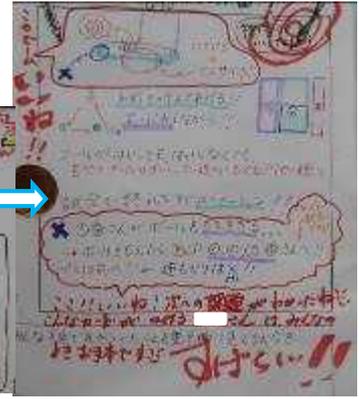
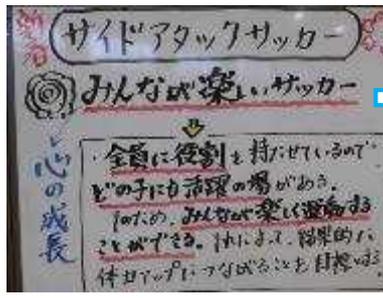
◎体力向上の取組がもたらす波及効果

- ・学校全体の滋養強壮や活力にも好影響を及ぼしているように思う。
- ・若手教員が専科の授業をモデルとして実践→教職員の資質向上、育成につながる。

○実践内容

●職員室前の手書きの体育掲示板

- ・頑張りの視覚化、価値化
- ・情報発信で一体感を全校に
- ・見学カードも活用⇒

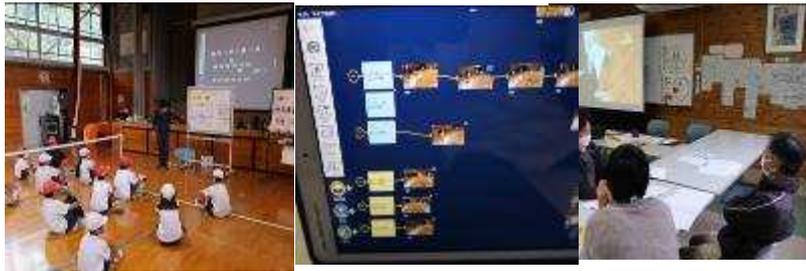


●アクティブラーニング⇒①自分の考え表現する②友だちのよさに気づく③目標を持ち、あきらめずに挑戦する。
 【一人一台端末利用やジェスチャーを交えたコミュニケーション】常に改善⇒成長



●本校の実践体育・スポーツを訪問体育や他校職員研修で発信

- ・(例)一人一台端末利用のテニピン授業(中津市立上津小学校)：市内体育部とも連携改善



●+αの手間

- ・準備がすべて



●できるポイント・できないポイント【対比・類似・因果でアクティブな思考を身に付ける】⇒見学カードより

